

第6回高知県社会教育委員会（令和3年4月1日～令和5年3月31日任期）会議概要

令和4年11月7日（月）9:00～11:00

高知県心の教育センター 研修室

出席委員（久寿久美子、竹村淳子、岩井拓史、  
川田米實、眞鍋大輔、廣末ゆか、  
斉藤雅洋、松田弥花）

1 開会（9:00～9:02）

高知県社会教育委員長挨拶

2 議事1（9:02～9:10）

令和5年度高知県社会教育関係団体への補助金について

（事務局）

資料に基づき説明

議事2（9:10～10:50）

テーマ：「新しい生活様式」の中での社会教育の在り方

（委員長）

今回は、提言（案）の検討を行う。

事務局が資料として作成した冊子を基に検討する。事務局から説明をお願いします。

（事務局）

配付資料について説明

○ver1 は第5回社会教育委員会の協議を基に作成した原案

○ver2、ver3 は第6回社会教育委員会の開催前に社会教育委員全員に ver1 の資料を共有し  
ており、それに対していただいた意見を基に修正した案

（委員長）

何か意見はないか。

（委員）

第1章2の1行目について、「社会教育では、人と人とのつながりを特に大切にしています」の部分について、「社会教育は人と人とのつながりそのものです」などのように、もう少し表現に重みを持たせてはどうか。

（委員）

ver3 をご覧いただきたい。ver3 では、第1章2の「社会教育では、人と人とのつながりを特に大切にしています」の前部分に、「令和3年人々のつながりに関する基礎調査結果（内閣官房）」の統計データを載せる案となっている。

「令和3年人々のつながりに関する基礎調査結果（内閣官房）」の統計データは、第5回社会

教育委員会における協議にて、構成を考える上で不要ではないかとの意見から削除した経緯があるが、改めて提言全体の内容を考えた際、統計データを載せることが必要と考える。

(委員長)

第1章2について、ver3のように「令和3年人々のつながりに関する基礎調査結果（内閣官房）」の統計データを取り入れつつ、「社会教育は人と人とのつながりそのものです」の部分については、もう少し表現に重みを持たせるということはどうだろうか。

意見はないか。

(委員)

文章だけでは少し弱さも感じていた。統計データを取り入れることに賛成する。

(委員)

統計データ自体は全国を対象とした内容であるが、本県においても共通していると考えられる部分も多いので、統計データを取り入れることに賛成する。

(委員長)

続いて第2章について意見はないか。

(委員)

ver1及びver2では、第2章2として「新しい生活様式」から見る本県の社会教育の未来図があるが、ver3ではこの項目を削除し、新たに「コロナ禍によって再認識した社会教育の重要性と可能性」という項目を第1章と第2章を総括するまとめとして追加している。

削除した「新しい生活様式」から見る本県の社会教育の未来図の内容についても触れているので、ver3の流れの方がよいのではないか。

(委員長)

他に意見はないか。

(委員)

ver3の案がいいのではないか。

第1章で触れたつながりの重要性等についてもまとめられていること、それから、ver3で削除した項目についても追加した項目で触れている。

(委員)

「本県」と「高知県」のいずれかに標記を統一してはどうか。

(委員長)

標記については「本県」で統一ということよろしいか。

また、第2章についてもver3の構成を基本とすることとし、文章の書き方等についてはver2の修正を基本とすることよろしいか。

よければ第3章について意見はないか。

(委員)

昨年度に視察に伺った「【高知県立塩見記念青少年プラザ】の活動」について、「令和4年度からWi-Fi環境を完備します」とあるが、現状にあわせた表現にすべきではないか。

(事務局)

現在整備中のため、そのように内容を修正する。

(委員)

香長小学校について、香美市立香長小学校としてはどうか。

(委員)

類似の学校名もあるので、混同を避けるためにも市町村名から標記する方がよいと考える。

(委員)

「地域学校協働本部事業（学校との連携）の拡充」とあるが、既に95%を超える実施校率となっている。

こうした背景があるので、施策の方向性として項目を立てるのであれば、「拡充」ではなく「充実」とした方が適切ではないか。

(委員)

「【津野町】の活動」について、「学校を核とした地域づくりは学校の管理職の手腕による部分が大きいので、行政はそのサポートをしていかなければなりません」とあるが、「サポートしていくことが大切です」などのように、少し表現を柔らかくしてはどうか。

(委員長)

各委員から様々な修正案の提案があったが意見はないか。

なければ第4章の検討を始めるが、意見はないか。

(委員)

「(1)〈遠隔地でもつながることができる公民館活動〉」において、「オンデマンド形式であれば、開館時間に制限されることもなくなり、仕事等で日中の公民館利用ができない層に対しても機会を提供することができます」とあるが、どのような機会なのかもう少し付け加えるべきではないか。例えば、「広く活動の機会」などの表現はどうか。

(委員)

「〈後継者の確保と育成〉」について、文章の中では人材という表現が多数みられるので、統一性を持たせてはどうか。

(委員)

人材という表現は適切と思うが、一方で後継者という視点も残しておきたい。

(委員)

「〈後継者の確保と育成〉」に合わせるということであれば後継者で統一するべきかと思うが、社会教育団体の中には青年団のように若い世代が活躍しているところもあるので、人材と後継者の使い分けをしてはどうか。

(委員)

後継者を確保して育成するというよりは育成して確保していくということになるのではないか。

(委員)

見出しについては、「〈人材の育成と後継者の確保〉」としてはどうか。

(委員)

「〈居場所づくりに取り組んでいる団体の教育的活動の追加に向けた支援〉」の中で、「利用者をうまくコーディネートすることができるようになることが期待できます」とあるが、例えば、「利用者のニーズをうまく拾い上げることができるようになるなど、充実した居場所づくりにつながることに期待できます」などのようにしてはどうか。

(委員)

社会教育士については、令和3年度からできた新しい称号であることから、説明を付け加えてはどうか。

(委員)

第3章にて、「地域学校協働本部事業（学校との連携）の拡充」から「地域学校協働本部事業（学校との連携）の充実」に見出しを変更することになったので、第4章でも同様の変更が必要ではないか。

(委員)

「地域学校協働本部事業（学校との連携）の拡充」では、ver1 や ver2 では「〈学校をプラットフォームとした活動の展開〉」のみとなっているが、ver3 では「〈コーディネーター等の人材育成と交流の促進〉」を付け加えているが内容が似通っている。

「〈学校をプラットフォームとした活動の展開〉」の現在の内容を全面的に見直すようにし、Wi-Fi 環境等整備を含め、活動の質的充実を目的とした環境づくりを中心にまとめ、「〈コーディネーター等の人材育成と交流の促進〉」では、コーディネーターや人材についてというように内容をはっきりと分けてはどうか。

(委員長)

学校が公民館のように地域住民の生涯学習の場となるように学校の開放を考えていくことも必要ではないか。

(委員)

事業を活性化させるための充実をということで、世代を超えたプラットフォーム的な環境整備と、人材を育成していくための環境整備の2つの視点があることを整理する必要がある。

(委員)

学校の開放について、ただ開放するということではなくて、開放することでどのように子ども達や地域を育んでいくのかということにつなげていくかを見据えておくことが必要。

(委員長)

他県では、地域の方々が学校を公民館のように活用している事例もある。

その他に意見がなければ、これまでに出了各委員からの意見に沿った修正を加えるということではどうか。

(委員長)

今回は、提言案のまとめを予定している。

### 3 閉会 (10:50～11:00)

生涯学習課 課長挨拶